

団体「のりこえねっと」だ。カンパで捻出した資金から交通費相当の金銭を支給し、現地の様子を発信する「市民特派員」を派遣したが、番組は「基地反対派に日当」などとデマを垂れ流した。特派員が語る「放送されない真実」とは――。(橋本誠、白名正利)

MXテレビ「ニュース女子」の中傷報道に批判

「日当はデマ 滞在費賄えず」
 「高江市民特派員」の募集は昨年九月、東京都内で開かれた「のりこえねっと」の集会で発表された。市民特派員には往復の飛行機代相当の五万円を支給、高江到着後に会員制交流サイト(SNS)で発信するほか、千文字程度の報告も依頼した。「高江に行きたいが、体が悪くて許せない」「高江の状況が許せない」といった個人を中心に多くのカンパが寄せられ、計十六人を派遣した。では、特派員の話聞いてみよう。

東京都豊島区の女性(仮名)は昨年十二月、八泊九日の日程で沖縄に滞在した。一九九五年の米兵による少女暴行事件を機にほぼ毎年、沖縄に足を運んできた。今回の訪問は、先月二十一日の米軍北部訓練場の部分返還式を前に、「高江の



①昨年9月の集会で、市民特派員への応募を呼び掛ける平塚玉さん(のりこえねっとのホームページから)
 ②重機による工事が進むヘリパッド建設現場(昨年11月、沖縄県東村高江周辺で)(市民特派員提供)

同乗して高江に日参した。オスプレイが大破した名護市の海岸にも駆けつけた。東京 那覇間は格安航空券で往復二万円弱、宿泊は一泊五千円の安ホテルで計四万円。レンタカー代や食費を加えた総額は計十数万円で、五万円の支給では半分程度しか賄えない。女性「自衛隊を切っても沖縄の声を伝えよう」と考える人を少しでも支えるのがカンパ。「ニュース女子」にやゆされて、とても平穏な気持ちではいられない。悔しい」と表情を曇らせる。

都内に住む田村誠さん(仮名)は昨年九月に約二週間滞在し、十万円ほどの持ち出しになった。現地では機動隊の様子を目を見張った。「市民が機動隊に暴力をふるっているなどと言われたが、機動隊のほうが市民に暴力をふるっていた」。早期から五十近い警察車両が市民を排除する様子などをスマホで撮影し、ツイッターで発信。本土の友

市民特派員「やゆされ悔しい」

人らは「本当にひどいね」「ここが同じ日本なのか」と驚いていると。鹿児島県在住の自営業男性(仮名)は昨年十月、往復約三万円のフェリーで丸一日かけて渡航。滞在中の十日間のほとんどは、反対する人たちのテントで寝泊まりした。「一日でも長くいられたらいい」と切り返した。カンパしてくれた人は、現地に行きたくても行けない人で、自分は自営業なので時間がつくれる。

九月下旬に訪問したフリーライターの高野俊一さん(仮名)の場合、五万円は飛行機代やレンタカー代ではほぼ消えた。高江の盛り込みの写真もツイッターで発信。「何が良かったか」「ニュースを見れば分かるので、沖縄の人がどんな気持ちでいるのかを書こう」と思った。「やんばるの森」で地元の人たちが悲しむ姿が強く印象に残った。「切り株に座ったり、歩き回ったり、落ち込みようがすごかった。ものすごく重い歴史を背負っている沖縄で、大事にしていたものがまた壊されたという感じで声をかけられなかった」。

「沖縄ヘイト」堂々と

カンパの思い踏みにじる

東京都内の四十代自営業男性は昨年十月に高江へ飛んだ。盛り込みの現場を撮影し、夜に泊まったネットカフェからツイッターで発信。飛行機代やレンタカー代を含む滞在費は計約五万五千円。「どうやって余らせたら日当になるのか」北関東に住む四十代会社

員男性は昨年十月末から三日間、初めて高江を訪問した。抗議行動をビデオカメラで撮影する傍ら、貴重な自然にも目を向けた。「空気が澄んでいて夜明けは星が近く見え、海と山が交差する場所での日の出の太陽が見える。機動隊の暴力がすごいのに、抗議の人たちが

前向きに頑張っているの印象的だった」
 昨年十一月八日から十四日まで沖縄に滞在した外山麻貴さん(仮名)は、木が伐採された現場に遭遇した。「現地では、取り決めで切っただけなのに、太い木もほとんど伐採された。防衛員が居合わせても注意すらしない」

五万円は一回で使い切り、再訪時に役立たず。「全国の期待を背負って行くのだから、大事に使わなければいけない。できる限り節約しなければいけない」。東京からの往復は格安航空会社(LCC)を利用した。「反対する人たちのテントに泊まり込み、食事も用意されるものを食べ、もしれないと怖くなった」。

「こちら特報部が「沖縄ヘイト」を初めて取り上げたのは二〇一四年五月のことだ。記事の中で「今のところ、反・反基地運動」が、基地反対運動を激化している可能性がある」と一部が過激化するかもしれない」と警鐘を鳴らした。実際は見ての通りの惨状である。(圭) 2017.11.26



首都圏の市民有志ら約六人が十九日、東京都千代田区の東京MX本社前で抗議行動を展開した。参加者たちはマイクで「番組内容はありえないウンだ」「許せない」と声を上げる。放送内容の訂正と謝罪を求める申し入れ書をMXの担当者へ手渡し、三線に乗せて「沖縄を返せ」を歌って締めくくった。「ニュース女子」は一月一日の放送で、「報道されない真実」と称して基地問題を特集し、ヘリパッド建設に反対する人たちが「テロリスト」に例えるなどして中傷した。のりこえねっとも引き合いに出された。出演者が「反対派は日当をもらっている」と発言。共同代表の辛淑志さんは「差別を載ってきたカリスマでお

「ネットのガセネタ拡散」線越えた

金がかんかん集まるよめられた。のりこえねっとは直ちに抗議声明を公表。沖縄地方紙の「琉球新報」「沖縄タイムス」は、社会面や社説で「番組で沖縄ヘイト」「取材せず偏見拡散」と批判した。

しかし、「ニュース女子」は九日の放送で、出演者が「日当五万円はデマじゃない」「財源はわからない。基金のようなものもあるだろう」と反論。十六日の放送の最後にテロップで様々なメディアの沖縄基地問題をめぐる議論の二選として放送致しましたとの見解を示した。今のごとき釈明や謝罪はない。辛淑志は「デマは議論ではない。あのテロップを見て怒らない人はいないだろう。MXは何が問題で何を批判されているのかが分かっていな

い」と一蹴する。今回の事態を受けて、放送倫理・番組向上機構(BPO)の放送倫理検証委員会は、MXテレビに報告を求め、その内容を独自に決めた。報告を踏まえて今後、委員会が議論するかどうかを公表することはない。結果を公表することはない。これとは別に辛淑志は、放送にたいして人権が侵害されたとして、BPOの放送人権委員会に被害の救済を申し立てる方針だ。辛淑志は「聞いてくれると力を込める。私個人がけんかを売られただけではない。政治的メディアの中心である東京のテレビ局が、ネット上のガセネタの類いを堂々と報じたという点で、悔えた。日本社会が沖縄への差別にどう向き合っていくかが問われている」。